

ヤンマーサッカーOB会

会 報

■ 発 行 日：平成30年6月吉日

■ 発行責任者：曾根 政芳

第9号

加茂周氏 日本サッカー殿堂入り

第14回日本サッカー殿堂に加茂周氏が選考され、2017年9月10日日本サッカーミュージアム内で掲額式が行われました。加茂氏は関学からヤンマーサッカー部、そして日本初のプロ監督として日産自動車や日本代表を率いた実績などすばらしい功績を残されました。



セレッソ大阪 シーズン2冠の偉業達成

第97回天皇杯全日本サッカー選手権大会の決勝が1月1日に埼玉スタジアムで行われ、セレッソ大阪が横浜マリノスと対戦し延長戦の末2-1で勝利しました。1974年に優勝したヤンマーサッカー部以来43年ぶりに天皇杯優勝を果たしました。また、2017年11月5日に同スタジアムで行われたルバンカップ決勝戦においても川崎フロンターレを2-0で下し初タイトルを獲得しました。2017年は2冠・リーグ戦3位という偉業を成し遂げた最高のシーズンになりました。



セレッソ大阪社長 玉田稔氏（ヤンマーサッカー OB）



日頃より、セレッソ大阪に熱いご声援と多くの支援を賜りまして誠にありがとうございます。昨シーズンは、初タイトル獲得に向け、選手・スタッフ一丸となり戦った結果、セレッソ大阪（Jリーグ）としては、初タイトルとなるルパンカップ・天皇杯の2冠、リーグ戦3位という好成績を残すことができました。今シーズンもクラブ一丸となり、さらに気持ちを引き締め、新たな目標に向かって全力で邁進いたします。昨シーズンと同様、変わらぬ熱い応援をよろしくお願いいたします。

セレッソ大阪強化部長 森島寛晃氏（ヤンマーサッカー OB）



ようやく待ちに待ったタイトルを取る事が出来ました。天皇杯と言えば私自身3度、元旦決勝で国立競技場でプレーし1月1日に肩を落とした、本当に忘れられない大会でもありました。

私がヤンマーに入社し寮の棚を見て、数々の優勝カップや様々なトロフィーなどをみて改めてヤンマーサッカー部の偉大さを実感しました。セレッソ大阪になって、早く何かタイトルを取りたいと思って私自身現役生活を走ってきましたけど、後一步で優勝を逃し、全部で5回もの悔しさを味わってきました。その内、3度決勝で優勝を逃してきた天皇杯だけに、優勝の喜びは今でも思い出すと気持ちが高ぶってきます。今まで優勝カップを相手チームが掲げる瞬間を数々みてきていただけない、その瞬間をセレッソの選手達が味わえたことを誇りに思います。これからヤンマーサッカー部のように、セレッソがJの舞台でますます輝けるように頑張っていきたいと思っています。

これからも先輩方の熱い応援をよろしくお願いいたします。



私とサッカー



入社後、Bチームとして大阪社会人4部リーグに加盟し選手生活がスタートした。順調に大阪1部に昇格、その年よりAチームから多くの先輩や高校卒新人が補強され、チーム全体も年々強くなっていきました。その年に日本リーグ2部が創設され関西リーグより上位4チームが自動昇格、我がヤンマークラブもその年大阪1部で上位になり関西社会人選手権に出場し苦戦の末、幸運にもベスト4に勝ち上がったことで関西リーグに昇格することが出来ました。関西社会人リーグでは毎年全国社会人選手権に出場し、3年目の鹿児島大会では準優勝だったが、翌年の静岡大会では準決勝で元三菱重工の杉山監督率

るヤマハ発動機(現ジュビロ磐田)に苦戦の末PK戦で勝利。決勝では古川千葉に勝利し初優勝、日本リーグ2部のチャレンジ権を得て入替戦で大日電線に勝利し、翌年日本リーグ2部に昇格する。私自身、多くの先輩や関係者に支えられ、大阪4部から日本リーグ2部までの選手生活を送れた事に感謝しています。その後、地域の少年サッカーの指導者として約20年間過ごせたのも多少なりサッカーに恩返しできたのではないかと思います。現在は、オーバー60歳のリサイクルズのチームに加入し、大石さんや多くの先輩達と月2回程度試合をし、試合後の一杯飲みを楽しみに頑張っています。

村上 隆 1962 (S37) 入部

私がヤンマーサッカー部を引退して思うこと



月日が経つのは早いもので、私がヤンマーのサッカー選手として一線を退いた1968年（昭和43年）より数えて50年が経過しました。しかしながら、私の日常生活からは長らくサッカーが消えることはありませんでした。今にして思えば私のサッカー人生はサプライズの連続であったように思い出します。それというのも私の小中学生の頃は痩せっぽちであったため高校生になったら何か運動をして筋肉質な体格になることを夢見てサッカー部を選んだわけで、おかげで高校、大学でのサッカー選手としては注目されることもなく、強いて言えば部員のまとめ役的役割を仰せつかることが多く、部の目標に向かって各選手の意識を纏めるのに腐心し、これはとりもなおさず選手の技量アップと同時に試合への戦術を決め、全員に徹底させることでもあり私自身もスタミナづくりと技量アップをしなければと焦りの連続であったことが今でも鮮明に思い出されます。1962年（昭和37年）入社時のヤンマーサッカー部は大阪実業団リーグで4部へ昇格して間もない時期でしたが、その後は順調に昇格し1965年（昭和40年）6月6日より始まった日本リーグにヤンマーサッカー選手として僅かに2年間とはいえ参加できたことは私のようにサッカーで一流選手に憧れて参画してきたわけでもない者が我が国のサッカー界で強豪8チームの一角で選手として試合に出場できたことは非常な幸運というより驚きであったと云わざるを得ません。しかし日本サッカーリーグでの2年間は初年度は8チーム中7位、2年目は同8位と低迷したため1967年（昭和42年）に会社は大量13名の選手補強を実施。私はサッカー選手として一線を退き、翌年始めにはサッカー部からも入社7年で引退することになり、元々アマチュアであった私は仕事オンリーに戻り2年後には経理部に在籍し金融機関訪問が日課でありましたが、ヤンマーサッカーの動向は1日も欠かさず新聞雑誌テレビニュース或いは現役選手から入手しておりました。一方で我がヤンマーサッカー部はその後の大型補強の効果が出てきており、1970年（昭和45年）

は4位、更に翌年は8チーム中、遂に首位に立つことが出来ました。こうなると社員は下より役員の方々、強いては取引金融機関の方々までもが我がことのように興味を示され元日本リーガーということで私にサッカーについて色々な質問があり私は仕事以外で引っ張りだこになりました。その一つに当時我社の定例役員会は毎週月曜日の早朝に行われており就業時間には終わることになっていましたが、ある時期より役員会が終わると私が当日の出席者の方々に前日の日本サッカーリーグでの試合について勝因或は敗因等を図に書いて説明するのが私のその週の仕事始めとなっておりました。このことはその後の私の社内での立場はどの部署へ転属になっても、その部門長は私が社長以下役員の方々にサッカーを説明したことが知れ渡っており、何かにつけ話し易く人間関係がスムーズであったことは今にして思えばサッカーをしていたことが幸いしたのではと思い出されます。その後1975年（昭和50年）7月から1978年（昭和53年）8月まで当社の大形ディーゼルエンジン製造工場へ転勤となり同じ経理部門に加え原価計算を担当することになりました。この工場は労働組合活動が活発で当時は総評系全金属労働組合に属し京阪神地区のモデル工場と位置付けられておりました。従いまして事務職員は工場現場の人たちと打ち解けて話し合うことはなく、特に原価担当として生産効率を会計の立場で査定評価する者にとって中々難しい立場でしたが、この工場はヤンマーサッカー発祥の地であり元サッカー部員が多数働いておられ更に当時の労働組合の書記長は私と同年輩と一緒に球を蹴っていた関係で工場のことは上司や同僚に聞くより書記長に教わる方がよく理解できたし、何時でもどこでも入ることができ、仕事に支障をきたすこともなかったことは、やはりサッカーをしていたことが大いに手助けになったと昔の仲間感謝したものです。今このように私とサッカーの過ごし方を思うとき、サッカーいやヤンマーのサッカー部を選び且つ卒業して本当によかったな～と思っております。

北野 修司 1962 (S37) 入部

私とサッカー



私のサッカーは川瀬さんの薦めで始まる。グラウンドに行けば石拾い、水撒き、ボールを蹴る、走る、奪うが原点。それでいいのか？それが1968年5月23日東京に来たイングランドのアーセナルVS日本代表の試合を国立競技場に観に行き、開始15秒で得点され、これがサッカーだと目から鱗の刺激を受ける。早速上司にブラジル工場へ転勤を直訴したが見事に却下。その後激しくアクロバティックなプレーに目覚めアピールする。仲間、先輩に刺激を受け励まされ、下積みからJSLに至るまでいろんなカテゴリーで頑張れた。それも手厚いサポートをしてもらえたヤンマーサッカー部のお陰です。学んだことも、長く・我慢・和・ここと思えば勝負。半月板損傷ケガのため10年の選手生命を閉じ退社。自立の道へ初めての珈琲の扉に一步踏み込むと、その魅力にのめり込んだ。店の経営

と発展に辛くても我慢。浮き沈みが多くても我慢。ここと思えば勝負。お客様との和を大切に打ち込んだ。肌に浸み込んだ物がにじみ出るには時間がかからなかった。地域の中学校にサッカー部がないのに気づき、地域にジュニアサッカークラブを作り阪神間で多数の試合をやり、楽しく、上手、サッカーを通じ人づくり。誰からも愛されることをモットーに小さな紳士であれ。いろいろな先輩後輩から兄弟のように接してもらい幸せでした。ヤンマーサッカーからセレッソ大阪に繋がりそして今回の快挙。J1リーグ3位、ルバンカップ優勝、天皇杯優勝、ヤンマーサッカーをやっていて皆から祝福を云われ何と至福の思い。私が歴史の1ページの中にいることにラッキー感謝致します。我が人生、ヤンマーサッカーのお陰。感謝。

三井 朝治 1962 (S37) 入部

キンチョウスタジアム改修工事に20万円寄附

この度、キンチョウスタジアム改修工事が決定されました。

桜が豊かに咲き誇り、市民の憩いの場、文化の場になるスタジアム、最新の環境テクノロジーをとり入れたスタジアムに改修されます。収容人数は 30,000 人、サッカー専用スタジアムとして 2021 年完成予定。尚、2017 年度ヤンマーサッカー OB 総会にて寄附金への賛同が承認され寄附 20 万円が決定されました。完成時には正面玄関にネームプレートが掲出される予定。その節は、是非、足を運んでいただければ幸いです。



第9回尼崎マスターズ・ネルソンカップW優勝

2017年11月19日尼崎陸上競技場(ベイコムスタジアム)においてマスターズ・ネルソンカップが開催されオーバー50、オーバー60の部でダブル優勝しました。オーバー50決勝戦では1-3の劣勢から大逆転で優勝。オーバー60では安定した力を発揮しリーグ戦無敗での優勝。

両カテゴリーとも2年連続優勝を達成しました。

オーバー60【優勝】リーグ戦 3勝1分



オーバー50【優勝】決勝戦 4-3



草木克洋氏 新潟医療福祉大学女子サッカー部監督就任



2018年2月新潟医療福祉大学女子サッカー部監督になりました。
まだ雪が残る新潟ですがチャレンジリーグ上位目指し頑張っております。
女子の監督は初めてですが、日々気を使いながら女子選手に接しています。
今までの経験を活かして新たなカテゴリーでも結果が残せるよう頑張ります。

YSG 会だより

第37回 平成29年10月25日 於：花屋敷ゴルフ倶楽部 よかわコース



優勝 三好 和久太
準優勝 石黒 清行
3位 赤須 陽太郎

台風一過の影響でコース内が荒れていましたが
(特にラフにボールが行くと探すのに大変！)、
倶楽部の皆様のご努力でグリーン含めフェア
ウェイは清掃されており、天候も良く楽しい一
日を過ごさせて頂きました。

第38回 平成30年4月24日 於：花屋敷ゴルフ倶楽部 よかわコース



優勝 村上 隆
準優勝 別所 充
3位 石黒 清行

雨の降りしきる中開催されました。
初参加の元ヤンマーファイナンス社長の高田穂
氏他 16名参加、最高齢の安達氏をはじめ皆さ
ん年齢を感じさせることなく熱戦を繰り広げて
いました。
お疲れ様でした。

「今後の YSG 会の予定：4月・10月とも第4火曜日といたしますので、ご予約願います。」

入部年別部員一覧 <214名>

1957年(昭和32) 14名

1 ・河 瀬 浩 正
2 ・木 村 均
3 ・有 村 宏三郎
4 ・鈴 木 了 三
5 ・佐久間 廣
6 ・竹 村 喜太郎
7 ・古城戸 邦彦
8 ・大 咲 陽
9 ・中 林 三毅
10 ・古 川 能 章
11 ・澤 田 秋 志
12 ・国 司 寛 相
13 ・山 村 隆 男
14 ・秋 山 辰 男

1958年(昭和33) 3名

15 ・東 弘 彦
16 ・井 田 勝 和
17 ・三 好 久太

1959年(昭和34) 8名

18 ・大 西 滋 郎
19 ・三 原 哲 泰
20 ・川 端 男 明
21 ・大 石 正 徹
22 ・弘 末 夫 明
23 ・園 田 明 勇
24 ・遠 山 上 靖
25 ・村 上 靖 夫

1960年(昭和35) 3名

26 ・菊 池 秀 男
27 ・石 黒 清 行
28 ・大 崎 征 治

1961年(昭和36) 9名

29 ・安 達 貞 至
30 ・井 上 洋 介
31 ・川 村 四 郎
32 ・三本松 修
33 ・平 山 幸 雄
34 ・梶 本 道 明
35 ・岡 崎 恵 恵
36 ・坂 口 二 男
37 ・中 山 三 穎
38 ・鬼 武 健 二
39 ・山 崎 正 人
40 ・北 野 修 司
41 ・富 田 英 治
42 ・中 川 二 隆
43 ・村 上 明 治
44 ・園 田 朝 治
45 ・三 井 林 信
46 ・小 林 信 治

1962年(昭和37) 9名

47 ・今 利 泰 三
48 ・鈴 木 寛 和
49 ・山 中 昇
50 ・加 茂 周 武
51 ・牛 尾 寛 正
52 ・二 井 正 和
53 ・渡 辺 孫 輔

1963年(昭和38) 3名

54 ・前 田 芳 弘
55 ・内 野 和 憲
56 ・志 村 光 紘
57 ・中 谷 春 夫

1964年(昭和39) 4名

58 ・辻 康 一
59 ・寺 崎 享 一
60 ・浜 頭 昌 宏
61 ・柳 田 静 也

1967年(昭和42) 13名

62 ・出 原 弘 之
63 ・西 片 信次郎
64 ・吉 村 大 志
65 ・本 下 栄 伴
66 ・山 下 秀 一
67 ・小 柴 誠 茂
68 ・釜 本 邦 洋
69 ・水 口 武 信
70 ・阿 部 武 信
71 ・元 川 勇 修
72 ・森 田 博
73 ・木津(土谷) 輝夫
74 ・松尾(吉川) 輝夫

1968年(昭和43) 11名

75 ・カルロス・エステベス
76 ・笠 井 孝 司
77 ・三 田 僥 治
78 ・今 村 博 治
79 ・木 村 文 蔵
80 ・湯 口 栄 豊
81 ・小 川 栄 壯
82 ・上 藤 上 一
83 ・井 田 俊 穂
84 ・高 岡 登 志
85 ・松 岡 志 男

1969年(昭和44) 4名

86 ・熊 本 一 郎
87 ・別 所 充 夫
88 ・北 村 重 彦
89 ・辻 和 彦

1970年(昭和45) 5名

90 ・楠目(田上) 敏之
91 ・赤 須 陽 太郎
92 ・野 田 義 一
93 ・成 川 博 夫
94 ・吹 田 茂 夫
95 ・松 村 雄 志
96 ・水 口 利 男
97 ・熊 川 忍 寛
98 ・三 田 美 晴
99 ・堀 井 洋 志
100 ・稲 垣 志 志
101 ・小 林・ジョージ

1971年(昭和46) 7名

102 ・阿 部 洋 夫
103 ・坂 野 博 男
104 ・大 畑 行 修
105 ・西 野 修 治

1972年(昭和47) 4名

106 ・上 西 一 雄
107 ・橋 本 好 隆
108 ・瀧 利 明
109 ・アントニオ・トリンカ
110 ・山 本 ネルソン
111 ・小野寺 正 芳

1973年(昭和48) 6名

112 ・垣 内 輝 久
113 ・山 田 祐 史
114 ・矢 野 正 人
115 ・吉 田 保 造
116 ・村 山 富 善

1974年(昭和49) 5名

117 ・ジュリオ・上 田
118 ・菊 池 健 嗣
119 ・倉 田 史 嗣
120 ・ロベルト・米 谷
121 ・ビタヤ・ラオハクル

1976年(昭和51) 8名

122 ・奥 出 章 寛
123 ・亀 田 忠 幸
124 ・ルイス・米 谷
125 ・曾 根 政 芳
126 ・白 石 勝 美
127 ・加 藤 信 行
128 ・曾 根 政 信
129 ・上野山 信 行

1977年(昭和52) 9名

130 ・藤 原 義 三
131 ・湯 浅 真 一
132 ・中 村 政 巳
133 ・玉 田 稔 三
134 ・岡 崎 有 敬
135 ・望 月 吾 民
136 ・富 沢 紀 勉
137 ・境 勉
138 ・ヘナト・ストッキー

1978年(昭和53) 6名

139 ・山 野 孝 明
140 ・安 田 一 仁
141 ・鈴 木 康 志
142 ・副 島 博 二
143 ・浜 田 浩 義
144 ・山 野 孝 義

1979年(昭和54) 7名

145 ・楚 輪 博
146 ・坪 田 和 美
147 ・川 口 勝 次
148 ・上 田 博 利
149 ・下 村 男 和
150 ・福 田 安 信
151 ・山 口 正 信

1980年(昭和55) 7名

152 ・長谷川 治 久
153 ・馬 場 俊 明
154 ・貴 志 弘 治
155 ・杉 浦 重 彦
156 ・菅 野 重 彦
157 ・横 江 ひろし
158 ・モレイラ・ディアス

1981年(昭和56) 4名

159 ・西 村 宏 昭
160 ・小 松 晃 晃
161 ・草 木 克 洋
162 ・太 宰 義 一

1982年(昭和57) 2名

163 ・松 下 浩 一
164 ・佐 賀 清 慈

1983年(昭和58) 2名

165 ・梶 野 智 幸
166 ・白 沢 久 則

1984年(昭和59) 3名

167 ・上 辻 正 夫
168 ・見 崎 敏 弘
169 ・伊 藤 祐 二

1985年(昭和60) 4名

170 ・神 尾 明 宏
171 ・井 谷 昌 二
172 ・平 井 良 和
173 ・井 上 佳 博

1986年(昭和61) 6名

174 ・西 出 拓 司
175 ・東 賢 治
176 ・沓 掛 秀 樹
177 ・小 西 忍
178 ・ジョナス・S
179 ・ワンデルラン・S

1987年(昭和62) 1名

180 ・田 中 和 也

1988年(昭和63) 4名

181 ・梶 野 智 弘
182 ・長 尾 光 弘
183 ・マルコス・A
184 ・ジョゼ・A

1989年(平成1) 3名

185 ・濁 沢 一 仁
186 ・マウロ・F
187 ・セルジオ・A

1990年(平成2) 3名

188 ・山 田 泰 寛
189 ・西ヶ谷 卓 也
190 ・川 前 力 也

1991年(平成3) 9名

191 ・宇 野 秀 徳
192 ・皆 本 勝 弘
193 ・高 橋 貴 史
194 ・森 島 寛 晃
195 ・武 田 治 郎
196 ・横 山 昭
197 ・パウテル・F
198 ・エリエル・E
199 ・ジュリオ・S

1992年(平成4) 7名

200 ・横 山 恵 介
201 ・宮 本 功 一
202 ・牧 田 寛 之
203 ・相 貝 幸 一
204 ・山 崎 伊 智
205 ・塚 本 明 正
206 ・竹 花 友 也

1993年(平成5) 8名

207 ・三 浦 慎 一
208 ・石 川 尚 大
209 ・北 出 尚 浩
210 ・石 田 浩 之
211 ・佐々木 洋 修
212 ・吉 山 誠
213 ・亀 谷 誠
214 ・ロナウド・M

<物故者>

・山 岡 浩二(総監督)
・東 弘 正
・河 瀬 浩 三
・鈴 木 寛 和
・大 西 滋 三
・中 山 三 人
・山 崎 正 信
・小 林 市 昇
・山 中 村 光 紘
・志 尾 寛 武
・牛 尾 大 志
・森 田 郎 蔵
・湯 村 口 栄 夫
・村 上 靖 明
・山 野 口 勝 信
・川 口 部 武 義
・白 石 田 茂 夫
・吹 田 俊 明
・園 田 泰 寛
・山 田 明 寛
・本 田 明 明

ヤンマーサッカーOB定期戦 ヤンマー社長チームに惜敗

平成29年7月29日 於：セレッソ大阪舞洲グラウンド



2017年7月29日にセレッソ舞洲グラウンドでヤンマーサッカーOB・ヤンマー社長チームとの定期親善試合が行われました。ヤンマー社長チームには現セレッソ大阪のユン・ジョンファン監督、ヤンマーサッカーOBチームには1989年入部した森島寛晃が入り白熱した試合が進む中、後半ユン・ジョンファンの絶妙パスから失点し惜しくも敗戦した。



平成29年度事業報告 (自H29/5/21～至H30/5/20)

- 平成28年度ヤンマーサッカーOB会総会 (H29/6/10)
於：ヤンマー特機エンジン事業本部・厚生棟
第1号議案・第2号議案・第3号議案 満場一致で可決
- 懇親会Jリーグ観戦 (H28/10/4)
セレッソ大阪 VS ヴィッセル神戸 (OB会・他79名参加)
- ゴルフコンペ開催 (YSG会)
於：花屋敷ゴルフ倶楽部 よかわコース
第37回 (H29/10/24) 優勝：三好和久太氏
第38回 (H30/4/25) 優勝：村上隆氏
- 尼崎マスターズ 兼 第9回ネルソン記念カップ開催 (H29/11/19)
オーバー50の部：優勝／オーバー60の部：優勝
- 山岡社長チームとの定期親善試合
- 理事会の開催 6回開催

平成30年度事業計画 (自H30/5/21～至H31/5/20)

- 平成27年度ヤンマーサッカーOB会総会 (H30/6/9)
- ヤンマーサッカーOB会会報 (第9号) 発刊 (H30/6)
- 尼崎マスターズサッカー大会参加 (H30/11)
於：尼崎市陸上競技場
- 第10回ネルソン記念カップ開催 (H30/11)
於：尼崎市陸上競技場
- ゴルフコンペ開催 (YSG会)
於：花屋敷ゴルフ倶楽部 よかわコース
第39回 (H30/10)
第40回 (H31/4)
- 懇親会Jリーグ観戦 (H30/10)
- 山岡社長チームとの定期親善試合 2試合
- 理事会の開催 6回以上/年

■ ヤンマーサッカーOB会のホームページは下記のURLで表示できます。

<http://www.yanmar-ob.com/soccer-ob/index.html>

※ホームページの情報の更新をお願いします。

ホームページは最新の情報を表示しない場合がありますので、最新情報を表示するためには更新が必要です。メニュー上段の  マークをクリックすると最新情報が表示されます。



ヤンマーサッカーOB会